

日 時	タイトル名	場所・座席	料 金	チケット 発売場所	未就 学児
9/25 (土) ・ 9/26 (日)	開館 20 周年記念事業 大和郡山市民劇団「古事語り部座」公演 歌劇 ふることぶみ 2021	大ホール 全席自由	1,000 円	発売中 [ホ][ロ][e+]	×
	天地開闢から、イザナギ・イザナミ、天の岩戸、ヤマタノオロチなど古事記上巻に描かれた物語を生演奏と歌と芝居で綴る壮大な物語。 脚色・演出・出演：松村武、音楽：サキタハヂメ、出演：大和郡山市民劇団「古事語り部座」				
10/23 (土)	奈良フィルサロンコンサート 音楽の土曜日 vol.184 ~LOVE LOVE LOVE~	レセプション ホール 全席自由	2,000円	発売中 [ホ] ※定員の50人になり次第 締切。	×
	出演:奥野 泰子(ソプラノ)、谷口 淳子(ピアノ)、袴田 さやか(ヴァイオリン) 曲目:愛の夢/リスト、月の光/ドビュッシー ほか				

※チケット欄の記号=発売場所 [ホ]:DMG MORI やまと郡山城ホール窓口 [ロ]:ローソンチケット [e+]:イープラス



市長てくてく城下町 192

「国体」から「国スポ」へ

大和郡山市長 上田 清

今から37年前の昭和59(1984)年、奈良県で初めて開催された「わかかさ国体」。

私自身は山岳連盟の一員として国体山岳競技の運営に関わり、会場の上北山村や天川村へ毎週のように通いつめたことを懐かしく思い出します。

当時の山岳競技は3人1チームで、岩場を登る「登攀」(クライミング)と「踏査」(オリエンテーリング)、過酷な荷物を背負って山道を歩くという走ってタイムを競う「縦走」の3部門で行われていました。しかしその後、踏査に続き縦走も廃止され、今はフリークライミングに属するリードとボルダリング2種目で行われています。

フリークライミングは東京オリンピック2020ですっかりおなじみになりましたが、大自然の中で繰り広げられる競技とはおよそ無縁のスポーツに生まれ変わったのも、時代の流れということでしょうか。少し寂しい気がします。

その国体が再び奈良県へやってくることになりました。今のところ令和13年に第85回国民スポーツ大会(令和6年以降国民体育大会から改称)と第30回全国障害者スポーツ大会が本県で開催される予定です。

前回のわかかさ国体で本市は、テニスとソフトボール(いずれも総合公園と県浄化センター公園)馬術(県浄化センター公園)の会場となりましたが、それぞれの会場の施設や環境の変化も踏まえながら、種目の調整がこれからの課題です。

そうした中、これまで慣れ親しんできた「国体」が「国スポ」となる訳ですが、個人的には体育という言葉に対する郷愁もあり、スポーツとは何かが違うような気がするのも正直なところです。

とはいえ、可能な範囲で体を動かす楽しみは、障害の有無にかかわらず、心身の健康に欠くことのできないものであり、体力や免疫力を維持するためにも、さまざまな競技や種目に関心を持っていただくきっかけになればと願っています。

